

地域トピックス

伊トピア八本松地区
自主防災会

子どもも大人も防災訓練

子どもは段ボールベット作り 大人はVRでリアルな災害体験

伊トピア八本松地区自主防災会(会長 中原好法)は9月29日(日)伊トピア集会所で東広島市消防署西分署の協力を得て防災訓練を実施した。



段ボールベットの強度を試す子ども達

この日参加者は16名で大人の方(8名)はVR(バーチャルリアリティ)による災害体験を、子ども達(8名)は避難所で用いる段ボールベットの組み立てに挑戦した。最後に全員で胸骨圧迫(心肺蘇生法)とAEDによる救急訓練を実施した。VRは東広島消防局と広島大学が共同製作したもので、昨年東広島市内で起きた災害時の体験を基にした三次元の仮想空間をゴーグルで視聴



ゴーグルで三次元被災体験(左)スクリーンには三次元画像

し、土石流災害を体験できるようなっている。体験者は「部屋の中が土砂に埋まっていくリアルティが怖かった」「いい体験をしました、その場になって冷静な判断ができるか不安です」等と感想を述べられた。段ボールベット作りは、中原防災会長から作り方の説明を受け、子ども達が協力して一つのベットは24個の段ボール箱を作り、これを二



段ボールベットを作成する子ども達

つにまとめた上に2枚の大きな段ボールを載せる簡単なもの。子ども達は、出来上がったベットに乗り、びっくりもしないことに驚いていた。また、胸骨圧迫訓練とAEDの救急訓練は、消防署西分署の説明を受け全員が体験。訓練後、子ども達から「胸骨圧迫は服の上からでもいいか」、「患者がうつぶせになっていたらどうするか」等の質問があり子ども達の真剣さが伺えた。

地域トピックス

災害時安否確認訓練

一斉清掃前に二十四力所で実施

八本松みなみ地区自主防災会(横井國興会長)は、9月29日(日)7時50分頃から地区内24力所の集合場所に住民の方が集まり、災害時の安否確認訓練を実施した。

確認作業を行うリーダーは、自治会の班長の役目で、集合した皆さんに家族の人数等に異常がないか確認。さらに、地震発生時の初動や安否確認、救出活動等の留意事項を全員で唱和し、防災意識の低下を防止している。これは、この地域の家屋の多くが水田や沼、池等を宅地に造成され建てられており、地震の影響を受けやすい環境下にあることから、平成27年から始められ、今回は9回目と訓練を重ねている。今では、多くの方がリーダーを経験されており、「いざ」という時、適切な対応がとれるものと思われる。

また、この訓練の参加率は毎回高く、今回も76%の世帯が参加している。近所との交流もできることから防災の互助体制づくりにも効果があるものと思われる。



安否確認実施中(4-5班)



留意事項唱和中(4-2班)



安否確認完了(4-1班)

八本松みなみ地区
自主防災会